

決算特別委員会の審査報告

決算特別委員会(青木綱次郎委員長、榎本昂輔副委員長、上田毅、片岡勉、河田美穂、菊川和滋、田原延行、橋本善之、吉高裕佳子の各委員で計9名)は10月14日、19日、21日、23日、30日、11月12日の6日間にかけて委員会を開催し、9月定例会で付託された令和元年度一般会計など9件の決算認定案について審査を行いました。

審査は部局別に行い、10月30日には6会派による総括審査を行った後、決算認定案をすべて認定しました。主な質疑は次のとおりです。

財政運営は？

企業誘致の可能性は？

【財政見通し】 財政平準化の取り組みは。

【財政課長】 今後、大規模プロジェクトが複数進んでいくため、中長期的な財政の見通しを踏まえ、優先度なども考えながら安定した財政運営をしていきたい。

【問】 市は企業誘致を進めようとしているのか。

【財政課長】 企業の意向もあるが、幅広い観点から誘致をする必要があると考えている。

【問】 都市計画事業費 総額が10年前と比較して3分の1に減少しているが、今後の見通しは。

【財政課長】 今後、田辺公園の拡張、大住草内線の整備等の事業が控えているため、事業費も増加していくと考える。

区・自治会運営は？

広報広聴事業

【問】 市民みらいミーティングで区・自治会ごとのブロック分けをしているが、共通している問題は、なり手不足である。市はどのように解決しようとしているのか。

【市民企画課長】 令和元年度から自治振興費に運営強化額連携推進費を設け、組織の強化を支援した。まちづくり推進協議会を立ち上げ、各区・自治会で利用できるように入促進チラシを区・自治会と共同で作成している。

水道事業会計

【問】 近年、府営水の受水量が増加しているが、なぜ府営水の依存度が高くなってきたのか。

【水道課長】 同志社山手の人口増加や井戸の老朽化、自己水の水量の減少等により、その分を府営水で補っているため。

情報教育推進費

【問】 タブレットが導入されるが、パソコンとタブレットの使い分けはどう考えているのか。

【教育部長】 パソコン教室はプログラミング教育などのパソコンの機能が必要となるもの。タブレット端末は教室に配置するため、普通の授業の中で調べ物や学習に活用するなど、性質を分けて有効活用していく。

介護保険特別会計

【問】 消費税増税の影響で介護保険サービスの利用に影響は出たのか。

【介護保険課長】 低所得者には、保険料の軽減措置を行っていることもあり、消費税増税の影響によるサービスの利用控えが起こっているというわけではないと思っている。

バス路線以外の公共交通は？

地域公共交通事業

【問】 市内バス路線5路線に負担金を支払い、また公共交通活性化に向けた啓発を行っているというのだが、前年度に比べてどの程度利用者数は増えたのか。

【計画交通課長】 元年度は京阪バスと奈良交通の2つの事業者合計で約11万3000人の方に利用いただいた。対前年比でみると1万2000人の減少。これは、2年2月以降に新型コロナウイルス感染症が拡大し、特に3月は緊急事態宣言による外出自粛要請の影響だとみられる。

【問】 バス交通等検証委員会が解散し、新たな地域公共交通活性化協議会ではどのような取り組みをしたのか。

【計画交通課長】 これまでの

高齢者の居場所づくり

【問】 現在、居場所づくり実施自治会数19とのことだが、増やしていく取り組みは。



居場所づくりの一環である健康体操の様子

【高齢者支援課長】 市内全ての区・自治会で高齢者の居場所づくりを行ってもらうことを目標にしている。民生委員や区の自治会役員等、地域のキーマンとなっていたただけそいう方に説明を行うことで、区・自治会への働きかけを行っている。

【問】 ソリテール事業に関する説明会とニーズ調査を行ったとのことだが、状況は。

【開発指導課長】 高齢者のソリテール事業の認知度は約3割であったが、6割が事業実施に賛成であった。

【問】 田辺公園拡張整備事業 検討委員会におけるワークショップは何回開催されたのか。また、その内容は。

【緑のまちづくり室長】 ワークショップは4回開催。また、田辺公園をどのようにしたいのかという意見から、4つのエリアに分け、どのような配置

【問】 緑のまちづくり室長 ワークショップは4回開催。また、田辺公園をどのようにしたいのかという意見から、4つのエリアに分け、どのような配置

【問】 緑のまちづくり室長 ワークショップは4回開催。また、田辺公園をどのようにしたいのかという意見から、4つのエリアに分け、どのような配置

ふるさと納税



ふるさと納税を紹介した市ホームページ



ふるさと納税の使い道の紹介

【問】 ふるさと納税について、市税の控除額と納税金額に乖離がある。今後のアイデアはあるのか。

【財政課長】 本市については、市外に流出していく金額が多いと考える。今後は、寄附金収入額を増やすため、例えば充当事業の工夫、返礼品の追加、検討中のクラウドファンディングなどの事業に着目した形で収入を増やしたい。